「日々の理科」（第 1607 号） 2018（H30),12,-2

「子どもたちと地球影を見る（２）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

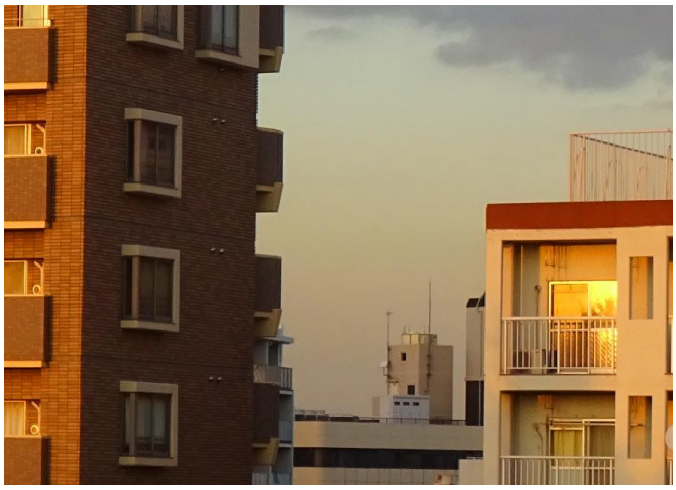
田中　千尋　Chihiro Tanaka

「理科の学習会」は学年全体で自由参加である。放課後の 15:35 から 16:10 までの短い時間だが、「理科の学び方」「理科の面白さ」「理科で大切なこと」など、日ごろの授業ではできない内容を、ギュっと凝縮した内容を毎回考えている。

冬至も近い 11 月の最終日、ちょうど学習会終了の時間帯に、屋上から日没が見られる。子どもたちと夕日を見る機会はめったにないので、学習会の最後に、子どもたちと屋上に上がった。

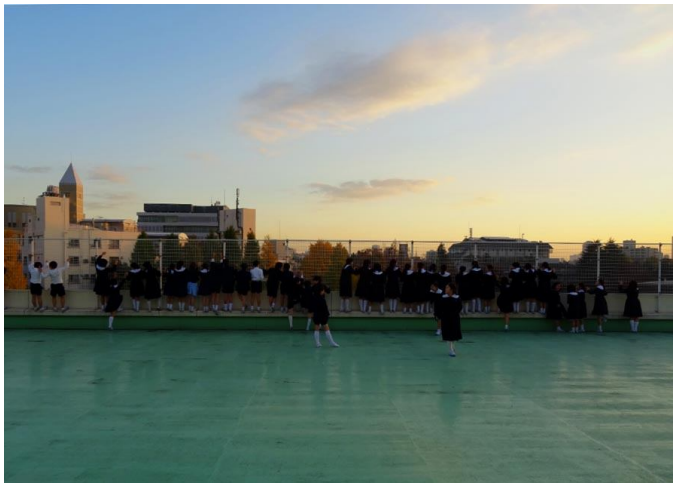
ちょうど理学部の建物の陰に太陽が沈むところだった。太陽の見かけの動きは意外にも速い。子どもたちはあっという間に沈んでいく太陽に驚いていた。

南西に沈む夕日の目を奪われがちだが、その反対側（北東の方位）にも着目させた。そこに「地球影」が観察できるのだ。この日は雲が増えてきたが、幸い地平線付近には晴れ間があった。



東京の地球影は、ビルやマンションの間に見える、「すき間地球影」だ。しかし、観察前にプリントで仕組みを説明してあったこと、それにほとんどの子どもは初めて見たようで、歓声をあげていた。

ついに、建物の隙間に太陽が沈んだ。驚いたことに、「太陽が沈むのを初めて見た」という子どもが、結構多かった。確かにそうかも知れない。「夕焼け」はよく見られるが、東京の子どもにとって、日没は珍しい現象なのかも知れない。



太陽が沈んだあとも、子どもたちは暮れなずむ東京の空を眺めていた。わずか 10 分の屋上での活動だったが、楽しく豊かな時間を共有できた。